

こうち+クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集1: 脊椎手術のごあんない

特集2: 令和6年能登半島地震に おける救護活動報告[3月]



高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

脊椎手術のごあんない

～腰椎すべり症に対する後方椎体間固定術～



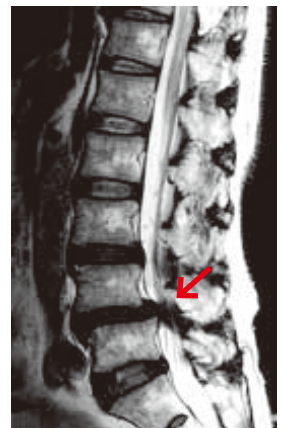
腰椎すべり症とは腰椎がずれることによって腰部脊柱管狭窄症同様の間欠性跛行、下肢痛、下肢のしびれ感を生じる疾患です。

手術では、狭くなった部分の除圧を行い神経の通り道を広げます。

また、椎間板部分に自身の骨を詰めたかごを挿入し、つぶれた椎間板を持ち上げます。脊椎に金属製のネジを挿入し、ずれを戻して固定し、骨癒合を目指します。



レントゲンでは、第4腰椎の前方すべりを認めます(矢印部分)。



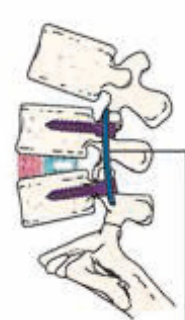
MRIでは、すべりの部分で脊柱管狭窄を認めます(矢印部分)。



切除した椎間板のスペースに自家骨を移植します



自家骨を詰めたケージを挿入します



金具を装着して固定します

当院での脊椎手術の特徴

当院では、外傷から慢性疾患まで、また頸椎から腰椎まで様々な脊椎疾患の手術治療が可能です。手術方法についても前方・後方手術、内視鏡下の手術から変性側弯症に対する矯正固定術まで幅広く対応しております。患者さんの生活様式や年齢、性別、全身状態を考慮して、患者さんの一人一人のニーズに合わせたオーダーメイドの治療を提案させていただいております。

脊椎固定術にはNavigation Systemを用いることで、精度の高い安全なインプラント設置を心がけています。



KINEVO 900

神経・血管吻合などマイクロサージャリーの際に使用する顕微鏡です。



ROSA knee システム

人工膝関節置換術において正確な骨切り・インプラント設置を補助する手術支援ロボットです。



脊椎 Navigation System

脊椎手術において、術中透視画像を元に神経血管損傷のリスクを低減させ、精度の高いインプラント設置を補助するシステムです。



人工股関節 Navigation System

人工股関節手術において、術前のCTを元に患者さんの身体情報と手術器具の位置を照合し、正確なインプラント設置を補助するシステムです。

整形外科の紹介

整形外科は、骨、関節、脊椎脊髄、筋腱などの疾病や外傷の治療を専門とする科です。当院では、脊椎疾患、関節疾患(人工関節)、一般的な外傷疾患に対する手術治療に加えて、マイクロサージャリーを用いた切断指の再接着や重度四肢外傷の再建治療にも積極的に取り組んでおります。



増島医師
脊椎外科専門

加納医師
肩関節外科専門

合田医師
脊椎外科・
人工関節専門

高橋医師
手外科専門

前原医師
手外科専門

お困りのことが
ございましたら
私たちにご相談
ください



地域開業医の皆さま、一般の皆さまへ

整形外科疾患でお悩みの方は、まずお近くの整形外科を受診され、整形外科医にご相談ください。保存療法で症状が良くならない場合、手術を含めて治療方針を検討したい場合には、当科への紹介を依頼してください。

開業医の先生方は、手術適応かどうか判断がつかない方や治療に難渋されている方がいらっしゃれば、当科までご紹介いただければと思います。お気軽にご相談ください。



整形外科ホームページ
詳しくはこちらから

当院では石川県能登半島地震への救護活動として1月から派遣を継続しており、3月はこころのケア調整班、中四国こころのケアチームを派遣しましたので、活動内容をご報告します。

活動報告

こころのケア調整班

期間：3月15日(金)～23日(土)

構成：臨床心理士1名(当院臨床心理士含む5名)

3月15日～23日の9日間、こころのケア調整班として派遣されました。活動内容は、実際にこころのケア活動を行っているこころのケア班の後方支援や、今後の活動全体に関して各関係機関と連絡調整を行ってきました。

発災から3ヶ月近く経ち、復興状況は地域により大きく異なっていました。特に被害の大きい地域では被災者や現地支援者の疲労、ストレスは非常に高く、こころのケア班や各関係機関と連携協力し、少しでも地域の方々の力になれるよう活動させていただきました。



中四国こころのケアチーム

期間：3月23日(土)～29日(金)

構成：看護師1名(当院看護師含む4名)

3月23日～29日まで能登半島地震こころのケア活動班として、輪島市役所と市立輪島病院の2ヶ所の施設で活動させていただきました。

訪室者のなかには疲れが抜けず蓄積されている印象の方もおり、リラクゼーションをおこないながら会話をする中で、ほんの少しの時間でもゆっくりしてもらおうこと、ホッとさせる時間をもてるよう、メンバーと話し合いながら活動させていただきました。被災者の方は、被災状況や発災からの時期などさまざま



リラクゼーション



市立輪島病院



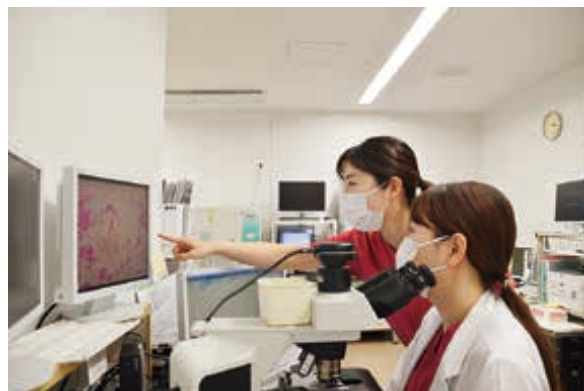
ミーティング風景

な状況・立場によって思いや考えは違って来るし、何かのきっかけで前向きにも後退することもあると思います。難しいことですが、その思いに少しでも寄り添い支援できるよう、「みる」「きく」「つなぐ」のスキルアップを図っていきたいと思います。



認定臨床微生物
検査技師
山北 里美

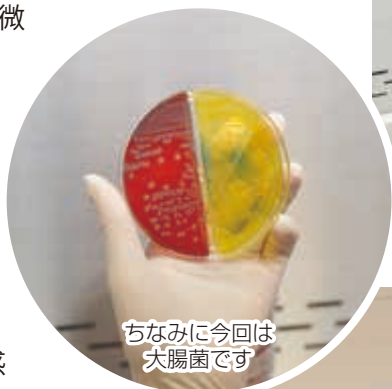
臨床検査技師とは、病気の診断や治療に必要な検査を行い、その結果を医師に提供する高い専門性をもった医療技術職です。私は検体検査課に所属しており、その中でも微生物検査という分野を担当しています。微生物検査技師は採取した尿、喀痰、便などから感染症の原因となる微生物を特定し、どの抗菌薬が有効かを調べる検査をしています。他にも新型コロナウイルスなどを調べる為の遺伝子検査も行っています。微生物というのは肉眼で観察することはできませんが、染色をすると顕微鏡で観察できるようになり、菌の形や数などから原因菌を推定することができます。そこからさらに菌を増やす為の培養という検査方法で原因菌を確定していきます。微生物検査において重要なのは原因菌を特定することですが、その為には高い知識・技術が必要です。例えば、便や痰の検体などは存在しても悪さをしない「常在菌」というものが多く含まれている為、それらの中から原因菌を特定しなくてはなりません。それを私たち微生物検査技師が正確そして迅速に判断しています。結果を最初に見るのは私たちであり、正確に判断できなければ適切な治療や診断に繋がらない為、責任はとても大きいです。私は一昨年に認定臨床微生物検査技師という資格を取得しました。この資格は近年、様々な感染症や薬剤耐性菌の増加が問題になっている中、それらに対応する最新の技術や検査方法を的確に行い、良質な医療を提供することを目的として作られた制度です。認定臨床微生物検査技師としての役割は原因菌の検出のみならず、適切な抗菌薬選択の為の有益な結果報告や、医師から微生物・感染症に関する質問・相談があれば専門的な視点で情報提供を行います。また病院内全ての人を感染から守る為の組織である感染対策チームの一員として、病院内の病原菌・ウイルスの検出状況を把握・情報発信するなど感染対策に関する活動もしています。このように認定臨床微生物検査技師は感染症のスペシャリストとして医療に携わっています。最後に、私の恩師が「目の前の検体が自分の一番大切な人から採取されたものだったら...」と思いつつながら検査に向き合うことが大切だ」と言ってくれたことがあります。この言葉そのものが私の目指す微生物検査技師であり、そうなれるよう日々努力し良質な医療を提供できるよう、これからも尽力していきたいと思っています。



1日目：検体を染色し、顕微鏡で菌の形態や数を観察し、原因菌を推定し、培養します



2日目：培地に生えた菌が何かを特定します



ちなみに今回は
大腸菌です



血液中の菌を検出するための機械です

内視鏡手術指導 in Thailand

消化器内科医師 内多 訓久

4/2-4/6 タイの Chulalongkorn 大学の関連病院である Maharat Nakhon Ratchasima Hospital に行き内視鏡手術の指導をしてきました。Maharat Nakhon Ratchasima Hospital は 1300 床の大きな病院でその地方の中核を担っています。Chulalongkorn 大学病院はタイ最大の王立病院ですが、母体はタイ赤十字が運営しています。内視鏡センター長の Pradermchai 先生は同じ赤十字病院として高知赤十字病院と連携した内視鏡教育システム構築なども期待されています。タイには大腸癌が多いものの、日本で行っている粘膜下剥離術は医師の技術不足で危険なため普及が難しいが、何とか技術を普及させて大腸癌で亡くなっていく方を救いたいとおっしゃっていました。日本の内視鏡レベルは世界トップであり、診断、治療技術はずば抜けています。今回同行した窪田先生も自ら資料を作り英語で内視鏡の基本をレクチャーしました。日本では高難度手技のトレーニング中ですが、彼女だからこそ現地の若い



Drに教える事が沢山あるのを実感したと思います。若い先生達にとっても国内外で活躍の場を持ち貢献すると共に視野が広がる事は自己研鑽のモチベーションにも繋がります。今後も活動の場を広げて行くと共に、高知から国内外に発信することで消化器チームが発展することが病院の明るい未来に繋がれば嬉しく思います。



タイとの医療交流

消化器内科医師 窪田 綾子

今回タイの病院からの要請で内多先生がタイへ医療技術を指導する出張に同行させていただきましたのでご報告させていただきます。今回初めてタイの医療に触れ、日本の内視鏡操作技術、診断力は優れたものであることを改めて知る事が出来ました。一方で、タイには外科手術も内視鏡手術も両方行う医師がおり、技術獲得に非常に意欲的で患者さんを助けたいという思いは一つなのだと感じました。外の世界を見ることで、客観的に自分の日々の診療の価値や意味を考える



ことにつながりました。また、赤十字病院は世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動しますという使命を掲げておりますが、今回のタイ赤十字病院との連携はこの使命に沿うものと思います。

今回このような出張の機会をくださいました病院や内多先生、不在中の業務を代行くださいました消化器内科の先生方に御礼申し上げます。この交流が高知赤十字病院の国際交流の始まりとなればと願っております。



CAFE CROSS

★ 研修医一年目のご紹介 ★

RESIDENT INFORMATION



きしの しゅんすけ
岸野 俊介 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは?

高校生の頃、人の役になっていることを実感できる職業に就きたいと何となく思っていた中で、人の「命」そのものと向き合う医師という職業に魅力を感じ、医師を志しました。患者さんに信頼される医師を目指して精進します。

これが好き♡

プロ野球観戦が大好きで、シーズンが始まると毎日結果を確認しています。東京ヤクルトスワローズ一筋で、年に数回は球場に行って応援しています! 球場ではいつも外野席で叫びながら観戦しています。



私、スゴイんです♪

物心ついた頃から昆虫が大好きで、小学生の頃は「昆虫博士」と呼ばれていました。神奈川の都会育ちの自分にとって、自然豊かな高知県は楽園です! 現在は県内のクワガタの生息地を開拓中です。



研修への意気込みをひとこと★

ご迷惑をおかけすることばかりだと思いますが、何事も一生懸命取り組むことを忘れないように頑張ります! よろしくお願いします!

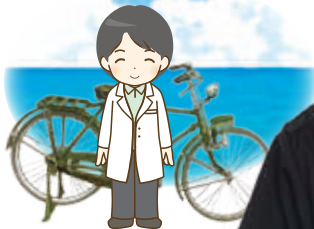


しまだ あんな
島田 杏奈 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは?

看護師として働く母を見て医療職に興味を持ちました。

その中でも医師を目指したのはDr.コトー診療所のコトー先生がかっこいいと思ったからです。



これが好き♡

スポーツを見るのが好きで、オリンピックは時間の許す限り全競技見ます! ちなみにプロ野球はカープファンです。



私、スゴイんです♪

あまりすごいことは思い浮かばないのですが、幼い頃にそろばんを習っていたので簡単な計算は得意です。

友人とご飯に行ったときの割り勘の計算は「電卓より早く」をモットーにしています。



研修への意気込みをひとこと★

初めてのことだらけで多々ご迷惑をおかけすると思いますが、日々成長していけるように頑張りたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



高知赤十字病院 健康管理センター 令和5年受診者アンケート調査結果報告



当健康管理センターでは、受診者さんのご意見を伺い、よりよい健診を提供するため、毎年1回、「受診者アンケート調査」を実施しております。

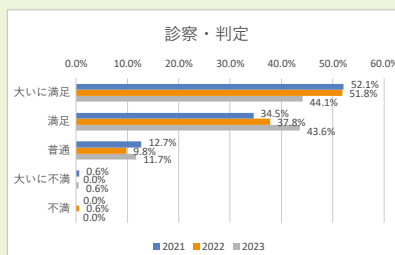
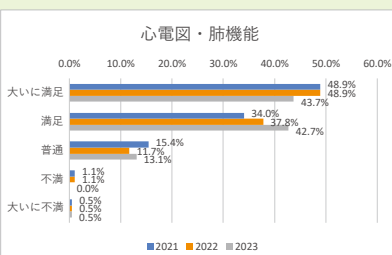
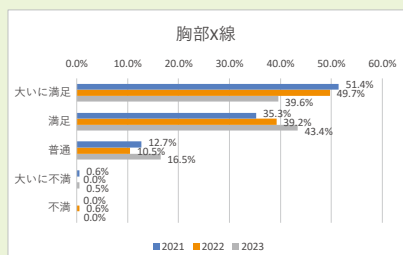
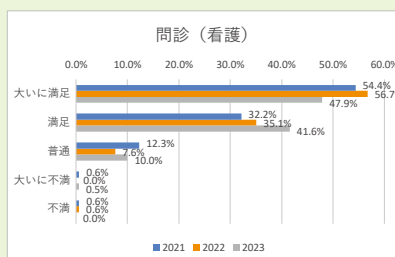
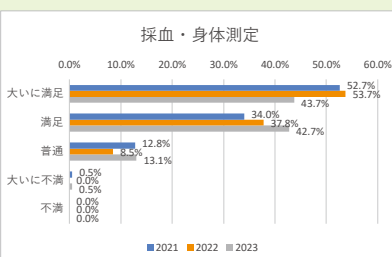
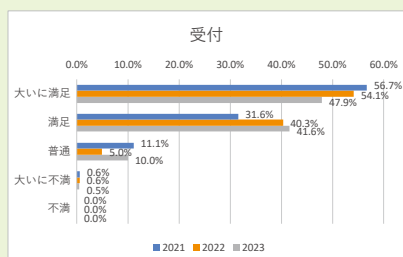
令和5年度も貴重なご意見・ご要望をいただきましたことを御礼申し上げます。

いただいたご意見を健康管理センターの運営に活かしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

● **実施期間** 令和5年11月27日(月)～12月8日(金)

● **対象者** 213名 / 248名(回答率85.9%)

当院職員の対応



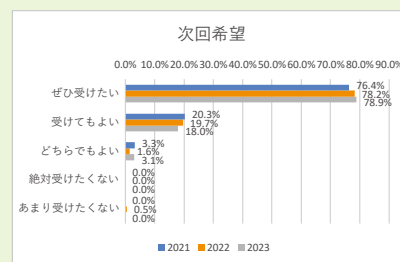
当院職員対応に対するご意見等

- アンケート記入時の背板があれば良いと思います。
- 胃X線の時、体の動かし方がよく分からない時があった。イラストがあると分かりやすい。ちょっと声が小さく聞き取りにくかった。
- 胃カメラはきつい
- 看護師には毎年お世話になってます。覚えていてくれていて、とても丁寧です。ずっと人間ドックにいてもらいたいです。
- 今回は腰痛もあったが、声かけや配慮してくださり、とても嬉しかったです。私も病棟でこんな風に患者さんに対応できるようにになりたい。(忙しくても優しい)
- 親切でいい。主任さんはとくにパーフェクト。なお全員すばらしい！スタッフ全員できばきしている。安心できる。
- 大変感じが良くて、気持ち良く、検査を受けることができました。

その他、ご意見・感想

- 記入事項(問診)についての診察をしてほしい。
- 満足です♥
- いつもお世話になります。またよろしくお願いします。
- スタッフ全員よかったです。
- お世話になりました。ありがとうございました。お忙しく大変だとは思いますが、頑張ってください。
- ずいぶん前から(以前の日赤病院時)お世話になっています。新しくなって喜んでおりましたが、待ち時間が長くなり不便を感じています。待ち時間の短縮、スムーズな案内をご検討してください。
- 混雑していないことが良いと思います。

次回の健診希望



- いつも明るい対応、気持ちが楽になります。胃カメラも細いので対応いただき、先生も大変上手にしてください、今まで1番楽でした。ありがとうございます。
- 胃カメラの予約がなかなかとれない。検査枠が増えたら良いな。
- 丁寧に対応していただき、安心して受診できました。待ち時間も短く良かったです。
- 大黒先生はじめスタッフが信頼できる。
- お世話になりました。
- 利用データは可能な限り、長期保存してほしい。変化は健康管理上の要になると思います。フル活用

防災season シーズン

～当院の防災の取り組みや考え方を紹介します～

No.8

医療事業・広報課 中平 秀行

日本赤十字社の救護業務で皆さんがご存じなのは医療救護活動ではないかと思いますが、医療救護活動以外にもいろいろな救護業務があります。そのうちのひとつに「救援物資の備蓄及び配分」があります。日本赤十字社では、被災者に対する救援活動を迅速かつ円滑に行うため、各都道府県支部および、各地区に平時から救援物資を備蓄しています。救援物資にはいくつかの種類があり、高知県支部には「毛布」「緊急セット」「安眠セット」があり、「緊急セット」にはタオル、歯ブラシなど避難生活に必要な物品が入っております。

高知県でも、各市町村に救援物資が整備されており、災害時には配分をしていただき、使用した分は高知県支部から補充をしています。平成30年の西日本豪雨災害の際には高知県でも宿毛市、大月町で被害があり、赤十字奉仕団、ボランティアの皆様にご協力いただき、各世帯に配分されました。これらの救援物資は企業から寄贈していただいたものだけでなく、皆様からいただいた活動資金で整備をしています。以前に支部で勤務していた者として、引き続き皆様の活動資金へのご協力よろしくお願いたします。



毛布



安眠セット



緊急セット



四万十川総合水防演習に参加して

第二検査部長 山崎 浩史

5月12日に四万十川河川敷で開催された総合水防演習に、日赤高知県支部救護班が参加しました。被災想定は「台風による大雨のため四万十川が氾濫した」というもので、それによる被災者の救護に当たるというものです。救護班は医師1名、看護師2名、主事2名の計5名で参加し、救護所での救護演習を行いました。

救護所とは、傷病者のトリアージ(傷病者の緊急度や重症度を判定して治療や搬送の優先順位を決定すること)や、応急処置等を行う場です。今回軽症負傷者5名、被災現場から救出された、低体温症とクラッシュ症候群各1名(いずれも重症)の、計7名の傷病者の対応を行いました。応急処置後、軽症5名は自身で近くの医療機関を受診していただき、重症2名は救急車で病院へ搬送としました。

低体温症やクラッシュ症候群は、水害・土砂災害で発生しがちな傷病であり、大雨による災害が増加している昨今、それによる傷病者発生の際には今回の演習の経験を活かし、迅速・的確に対応したいと存じます。



救護員任命式

令和6年4月3日(水)、高知赤十字病院において、令和6年度救護員任命式を行いました。災害に備えて、これから訓練、研修等を行ってまいりますので、救護員の皆さん1年間よろしくお願いします。



令和6年度日本赤十字社高知県支部救護班編成名簿

施設名	班名	医師(班長)	看護師長	看護師	薬剤師	主事
高知赤十字病院	1	米澤 竹一	北代 恭子	梅原 照美 上田 純子	邑岡 俊明	森本 裕紀 森 亮輔
	2	岩部 純	小松 ひろみ	海治 美幸 吉良 真奈美	田岡 京将	鹿取 美由紀 岡村 太郎
	3	大家 力矢	湯田平 千春	岡林 靖子 松崎 良子	竹本 安希	長崎 紀子 徳弘 健
高知県赤十字血液センター 高知赤十字病院	4	坂本 敬	伊勢田 純子	近森 悠佳 竹崎 由	永田 真穂	竹村 いずみ 徳弘 真弓
	5	板東 康司	久保山 百合	岩城 聖子 筒井 克枝	小松 優真	近藤 かずみ 上村 裕希
高知赤十字病院	6	中西 茂雄	川田 世里子	宅間 真由美 森 通子	吉本 真理	高野 静香 西岡 奈波
	特命	西山 謹吾	【高知大学医学部危機管理医療学講座 特任教授(日本赤十字社高知県支部 参与)】			

「脳神経外科」に掲載されました

第一脳神経外科副部長 溝渕 佳史

国内で発行されている脳神経外科の雑誌、「脳神経外科」の脳神経圧迫症候群のすべてに、三叉神経痛と顔面痙攣の疫学という題名で掲載されました。これからも、高知から全国へ向けて発信していけるように努力したいと思います。



日本内科学会総合内科専門医資格を取得しました

呼吸器内科医師 森住 俊

令和5年12月に、日本内科学会総合内科専門医資格を取得しました。総合内科専門医は、全ての内科領域を広く診療できる知識を持つ医師の育成を目指し、日本内科学会が定めている資格です。高齢化社会において、総合的な内科診療能力がより重要となるため、今回の資格所得を糧に、より皆様のお役に立てるよう精進してまいります。



骨粗鬆症リエゾンチームの活動紹介

看護師(骨粗鬆症マネージャー) 岩城・河野・大住

「骨粗鬆症リエゾンサービス(FLS)」の活動について

骨粗鬆症の患者さんは、骨折が大きな健康問題となります。特に背骨や足の付け根を骨折すると、寝たきりになる危険性も高まり、健康寿命が短くなるおそれがあります。骨粗鬆症と診断されたら、こうした骨折を防ぐための治療をはじめ、しっかり続けていくことが大切です。

当院では、骨粗鬆症マネージャーを中心に二次骨折予防にむけて活動を行っています。皆さんもぜひ一緒に取り組んで行きましょう！



主な活動内容

- FLSメンバー：医師・看護師・薬剤師・理学療養士・管理栄養士など(骨粗鬆症マネージャー資格者3名在籍)
- 対象患者：大腿骨近位部骨折(保存は除外)
- カンファレンスを1回/週(月)
- 骨粗鬆症連携手帳にそって患者指導





日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



高知家健康バースト事業
ポイント付与対象事業

高知新聞企業医療公開講座

高知赤十字病院 医療公開講座



参加無料 定員80名

令和6年

9/14(土)

事前申込制

対象

県民の皆さま

佐川町総合文化センター 大研修室
(高知県高岡郡佐川町甲 356-2)

13:30~15:00
(開場 13:00)

高知赤十字病院は、人道・博愛の赤十字精神を基に、医療機能の充実や質の向上、県民の皆さまへの啓発活動に力を入れています。公開講座で最先端の診断と治療について学んでみましょう。お気軽にご参加ください。

講演 1

13:40~14:10

「よくわかる 膵がんの手術」

高知赤十字病院 第二外科部副部長
上村 直



講演 2

14:20~14:50

「脳ドックのススメ」

高知赤十字病院
第一脳神経外科部副部長
溝渕 佳史



お申し込み・
お問い合わせ

高知新聞企業 セミナー係 ☎088-825-4110
高知市本町3丁目3-39 (高知放送南館5階) (平日 9:30~17:30)

※感染防止対策(マスク着用等)にご協力ください
※駐車場あります

主催: 高知新聞企業
共催: 高知赤十字病院
後援: 佐川町

胃癌学会 施設認定

第二外科部長 山井 礼道

令和6年4月、当院が胃癌学会の認定施設Bの認定を受けました。当院は拡大内視鏡による胃癌の範囲診断、低侵襲手術である胃癌に対するLECS(腹腔鏡内視鏡合同手術)やロボット支援胃癌手術で県内ならびに四国内の胃癌治療をリードしてきました(胃癌総手術数、県内2位、ESD県内1位、ロボット支援手術県内1位 手術数でわかるいい病院2024 週刊朝日MOOKより)。施設認定制度が始まった当初は、多忙で申請を見送っておりました。ただ、これだけ先進的な取り組みをしているなら、施設認定を受けることで患者さんにより安心を与えられるのではないかと思います。申請、認定に至っております。高知県は大学病院が認定施設A、高知医療センターと当院が認定施設Bで3施設のみとなっております。これは、内視鏡室、手術室、消化器病棟スタッフ、消化器内科、消化器外科が質の高い診療をシームレスに行えた結果と思っております。引き続き、胃癌患者に県内一番の質の高い診断、治療が行えるように頑張りたいと思います。



病理 頼田Dr

内科 内多Dr

外科 山井Dr

放科 伊藤Dr

高知赤十字病院
ホームページ

<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>



高知赤十字病院
Facebook

<https://www.facebook.com/krcch.kouhou/>



よろしければ
フォロワー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

